

# 総括

## 1. 病院の特色

貴院は、主に整形外科医療を中心に、一般およびスポーツ整形外科に特化してきたが、2013年11月に新規移転した際に、回復期リハビリテーション病棟を開設し、現在は回復期リハビリテーション入院料1を取得している。基本方針としては、患者本位の医療の実践、地域医療への貢献、チームアプローチの充実、先端医療の導入など幅広い。

今回、組織全体としてはリハビリテーション医療・ケアが適切に提供されていると見受けられたが、回復期リハビリテーション病棟の機能という面においては、さらなる体制強化が望ましい部分も見受けられた。今回の審査結果が、貴院の益々の発見に寄与できることを祈念したい。

## 2. 良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営

回復期リハビリテーション部門の理念・基本方針は、病院や組織運営に視点をおいたものとなっているが、より患者の視点に立ち、ICFに基づいた考え方を取り入れた内容とすると、さらに良い。人員配置については、病棟の専従医としてリハビリテーション科専門医を配置し、多職種についても基準を満たしており適切である。病院組織図、委員会組織図が提示されているが、病棟においてはチーム医療を実践していく上で、指示命令系統や責任の所在が明確になるように、工夫されると良い。

患者急変時の対応手順や体制は適切であるが、緊急コードの運用基準の整備や、患者急変時と院内暴力を区別することなども検討されたい。療養環境整備については、多職種の意見を取り入れた転倒・転落や離院の危険性を考慮した具体的対応もみられた。

質改善に向けた課題分析、対応策については、組織的に検討されており適切である。地域の急性期病院との連携も良好であり、定期的な地域連携パス会議での情報の共有ほか、地域の医療機関、介護福祉施設との円滑な連携を図っている。

## 3. 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

専従のリハビリテーション科専門医が1名配置され、患者の健康管理、多職種への指導にあたり、またチームのまとめ役として適切に活動している。医師はチームおよび自身の質の向上のための研究活動などに対しても積極的な姿勢がみられる。看護・介護部門では、入院時からプライマリーナースを実践し、カンファレンス、電子カルテ、カードックスを利用しながら多職種との情報共有を図っている。看護の質の向上にも積極的姿勢がみられる。

セラピストマネジャーはPT・OT・ST各1名、計3名を配置している。各療法士は、それぞれの専門性を発揮してチーム医療に貢献している。入院当日から入院時合同評価に参加し、多職種協働での評価・分析を実施している。質の向上についても新人研修や部内勉強会の実施ほか、学会発表も行われている。

社会福祉士2名、管理栄養士3名が病棟でチーム医療に参加して実践している。薬剤師の病棟業務については今後の課題としたい。

#### 4. チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践

入院初日に医師をはじめ多職種による合同評価、初期カンファレンス、リハビリテーション計画書、看護ケア計画等が作成され実践されている。初期計画書は医師により患者に説明がなされている。

計画的リハビリテーションのほか、病棟では訓練時間以外にも看護師・介護士によりADL拡大に向けたケアの取り組みを行っている。余暇については療法士と介護士によるレクリエーションが企画されている。日々の予定表は患者のベッドサイドに掲示し、変更があった際は当日朝までに患者に伝えるよう努めている。リハビリテーションの進捗状況は電子カルテやカードックスで多職種と共有され、必要に応じて更新される仕組みが確立していることは評価したい。

定期的なカンファレンスも活発に行われており、患者の新たな課題についても対応もみられた。在宅復帰に向けた取り組みとしては、入院早期からの写真による自宅環境把握、退院前家屋調査、試験外泊などの結果を総合して、担当者同士による積極的な調整が行われ、家族に対する介護指導も実施している。

## 評価判定結果

1	良質な回復期リハビリテーションを提供するための組織運営	
1.1	良質なリハビリテーションを提供するための体制	
1.1.1	回復期リハビリテーション病棟の運営に関する方針が明確である	B
1.1.2	良質な回復期リハビリテーション機能を発揮するために必要な人員を配置している	A
1.1.3	リハビリテーションを提供するための組織体制が確立している	B
1.2	安全で質の高いリハビリテーションを実践するための取り組み	
1.2.1	患者の安全確保に向けた体制を整備している	B
1.2.2	患者の急変時に適切に対応できる仕組みを整備している	B
1.2.3	安全で安心できる療養環境の整備に努めている	A
1.3	質改善に向けた取り組み	
1.3.1	回復期リハビリテーションの質改善に必要なデータを収集し活用している	A
1.3.2	回復期リハビリテーションに関する自院の課題の把握と対応策を検討している	A
1.3.3	回復期リハビリテーションに関する教育・研修を行っている	A
1.4	地域の医療機関等との連携とリハビリテーションの継続に向けた取り組み	
1.4.1	急性期病院と円滑に連携している	A
1.4.2	在宅復帰後のリハビリテーション・ケアの継続に向けて地域サービス機関等と円滑に連携している	A
1.4.3	在宅復帰が困難な患者のリハビリテーション・ケアの継続に向けて施設等と円滑に連携している	A

2 回復期リハビリテーションに関わる職員の専門性

2.1	回復期リハビリテーション病棟における医師の専門性の発揮	
2.1.1	医師は専門的な役割・機能を発揮している	B
2.1.2	医師は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	A
2.1.3	医師はチーム医療の実践に適切に関与している	A
2.1.4	医師は質向上に向けた活動に取り組んでいる	A
2.2	回復期リハビリテーション病棟における看護・介護職の専門性の発揮	
2.2.1	看護・介護職は役割・専門性を発揮している	A
2.2.2	看護・介護職は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	A
2.2.3	看護・介護職はチーム医療の実践に適切に関与している	A
2.2.4	看護・介護職は質向上に向けた活動に取り組んでいる	B
2.3	回復期リハビリテーション病棟における療法士の専門性の発揮	
2.3.1.P	理学療法士は役割・専門性を発揮している	A
2.3.2.P	理学療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	A
2.3.3.P	理学療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	A
2.3.4.P	理学療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	A
2.3.1.0	作業療法士は役割・専門性を発揮している	A
2.3.2.0	作業療法士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	A
2.3.3.0	作業療法士はチーム医療の実践に適切に関与している	A
2.3.4.0	作業療法士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	A
2.3.1.S	言語聴覚士は役割・専門性を発揮している	A
2.3.2.S	言語聴覚士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	A
2.3.3.S	言語聴覚士はチーム医療の実践に適切に関与している	A
2.3.4.S	言語聴覚士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	A
2.4	回復期リハビリテーション病棟における社会福祉士の専門性の発揮	
2.4.1	社会福祉士は役割・専門性を発揮している	A
2.4.2	社会福祉士は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	A
2.4.3	社会福祉士はチーム医療の実践に適切に関与している	A
2.4.4	社会福祉士は質向上に向けた活動に取り組んでいる	B

2.5	回復期リハビリテーション病棟における関連職種の専門性の発揮	
2.5.1	関連職種は役割・専門性を発揮している	A
2.5.2	関連職種は患者の実生活を踏まえた指導・支援を行っている	A
2.5.3	関連職種はチーム医療の実践に適切に関与している	A
2.5.4	関連職種は質向上に向けた活動に取り組んでいる	A
3	チーム医療による回復期リハビリテーション・ケアの実践	
3.1	初期評価とリハビリテーション計画の立案	
3.1.1	初期評価を適切に行っている	A
3.1.2	リハビリテーション計画を適切に立案している	A
3.2	専門職による回復期リハビリテーション・ケアの実施	
3.2.1	各職種により患者に必要なリハビリテーション・ケアを実施している	A
3.2.2	リハビリテーションの進捗状況を共有している	A
3.3	多職種による課題の共有と対応	
3.3.1	定期的な情報共有による新たな課題の評価・検討を行っている	A
3.3.2	新たな課題の解決に向けたリハビリテーション・ケアを実施している	A
3.4	在宅復帰に向けた多職種による協働	
3.4.1	在宅復帰とその維持に必要な患者固有の課題の評価・検討を行っている	A
3.4.2	在宅復帰とその維持に向けた課題の解決のための具体的な取り組みを行っている	A